

第1回 総務建設常任委員会

開催日	令和4年2月3日（木曜日）	
開催場所	粕屋町役場 3F 31会議室	
開催時間	9:05～11:10	
出席者	議員	末若委員長・杉野副委員長・山脇委員・川口委員 安藤委員・鞭馬委員・案浦委員・田代委員
	事務局	山田主幹
	担当課	なし
欠席者	なし	
審査項目	<p>協議事項</p> <p>1) 視察研修のまとめ</p> <p>1月12日(水)に実施した那珂川市及び福岡地区水道企業団の視察について、視察報告書としてまとめたうえで議長に提出するため、各委員の感想、意見を聴取することとした。</p> <p>視察を終えての感想、意見については以下のとおり。</p> <p>○那珂川市（市制移行に向けた取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none">・市になるために、マスコミ等も利用し進めてきたが、3年経過し人口はあまり伸びていない。事務は県から移譲があり特に福祉事務所の部分が負担となっている。当町としてもいずれ市になったときのために対策を進めておく必要がある。・市になったが、福祉事務所関係が近くなり、良くなった以外はあまり変わらないという声を聴く。逆に山間部と都市部の格差が大きくなったという声もあるようだ。・参考になった。説明ではどちらかというといいことを書かれていたが、町から市になったことによるはっきりしたメリットは見えなかった。今回府中町には行けなかったが、市にならず町のまま存続しているところもしっかりと見てみたい。・町の活性化ということで、企業誘致についても聞いた。問い合わせは増えたとのことだが具体的な話はなかった。市になるにあたり企業側と話をしておくことも必要ではないか。・国は地方分権の受け皿として市を念頭に置いているとの話があったが、果たしてそうなのか。国や県に確認が必要。・税金に関しては市になっても変わらないということで、その点については安心した。福祉事務所についてはあるものを利用した	

審査項目

ということだが、当町としてはどうすべきか、そのようなものは無いので作ることになるのではないか。

・職員定数については全体として 15 名ほど増員、福祉関係で 12 名増員したようだが、移行される福祉関係の事務は相当な量があるので、果たしてそれで済むのか疑問。調査の必要があると思う。

・福祉関係については、住民サービスという面ではメリットは大きいのではないか。

・交付金は増えるが、事務量に対して増えるのでメリットとなるというのは違うのではないか。

・交付税というのは枠が決まっていて、それを自治体間で取り合うわけで、総枠は変わらない。それほどメリットはないのでは。

・議員報酬について、住民説明会で市制になったからと言って上がらないと執行部側が説明したことで、その後上げにくくなったとのことだったが、当町でもしっかりと準備を進めていく必要があると思う。

・議会が町の段階から会派制を採っていたというのが印象的であった。当町でもそういう方向で考えていく必要がある。

・いずれにしても市制への取り組みは早く行っていかなければならない。

・市制への段取りについて、住民への意向調査の点、県から人材派遣をしていただき準備を進めた点などよく学べたと思う。

・市になっても大きく変わっていないというのが印象。合併についても周りがすべてすでに市になっており議論の余地はなかったようだが、当町は以前合併の話もあったので、その点についても十分考えていく必要がある。

・市制の一番のメリットはイメージアップだと思う。福祉事務所については見方によってメリットにもデメリットにもなる。

・地方交付税の配分において、町は県からの配分だが、市は国からの配分となるので、その点で少し増えるのではないか。

・議会についてもハード、ソフト両面で市制に向けた準備を進めていかないといけない。

・いずれにしても町民の意向が重要。国勢調査もあと 3 年後であり、町民への情報提供としてタウンミーティングなども必要。

・雰囲気醸成など事前の準備が重要。定住人口をどう増やすかというところを主眼に置いて進めていくべきだが、国勢調査まであと 3 年しかないので、もっと広報などで情報提供を進めていくべき。

・まず方針を町が明確にするべき。そして住民の総意を結集していくことが大事。

・当町はかなり職員が少ないので、人員の確保を計画的に進めることが重要。

・議員報酬の件で、市制の議論の中で変わらないとの話がなされ

審査項目

たことにより上げられなくなったということだが、現状の報酬がどうなのかという議論が必要。現状の報酬では子育てしながら議員をするのは困難。仕事をリタイヤした世代くらいからしか議員になるのは難しい。その点を住民はどう考えるのか、専従の議員が必要なのか、そうでなければ平日の登庁を減らすことが必要。そのような議論を進めてかないといけない。

・議会としてのトータルコストでの議論が必要。また報酬等を決定する第三者的機関も必要。

・町の権限と市の権限では200以上違う。そこがメリット。

・単独市制か合併による市制か。合併といっても様々な形がある。

・市制に移行することによりかなりの経費が掛かる。それを上回る明確なメリットを示せるかどうか重要。

・人口減少社会が進む中、市制により人を集める施策が必要。市になり、地の利を活かしていくことが求められる。そのことを住民に訴えていくしかないのではないか。

・糸島市の例のように、単独市から合併という手もある。

・市になることが目的ではなく、地方分権の時代に生き残れる自治体を作ることが重要。

・地域全体が潤う、住民にやさしい自治体になることが必要。

・市制施行がゴールではない。そこからがスタート。

・市制移行についての住民との意見交換会の開催をしてはどうか。

・町のままで進んだ場合と市制に移行した場合の将来推計を想定し、住民に対し示すべき。

・執行部に対して市制に向けて、議会の後押しが必要。

・府中町へ視察に行けなかったが、次年度に行くか、もしくは書面等で回答を求めるなど考えてはどうか。

○福岡地区水道企業団

牛頸浄水場・海の中道奈多海水淡水化センター

(粕屋町における水資源及び水道施設の現状の確認について)

・市制に絡めて考えると、那珂川市は水源を保有しており、その点では強みであるといえる。

・当町は、水資源という点はネックになっており、市制を考えたときに大きな弱みである。そういう点については合併を伴う市制への移行というものも検討が必要では。

・現状でも町境界に近い地域や、宅地開発が急激に進んだ地域では朝夕水が出にくいと聞く。全体の水資源や施設的には問題はないようだが、今後人口は当分の間増加していくこともあり、末端部の施設改修を早急に取り組む必要があるのではないか。

・町内の配管設備の整備がもっと必要ではないか。

・人口の増加に水道管の整備が追い付いていないのではないか。

<p>審査項目</p>	<p>しかしそのためには多額な費用が必要であるため、計画的に進めることが大事。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当町は水源が乏しいので企業団の水が命綱でもある。この事業は重要であり、しっかりと見ていく必要がある。人口を増やすためにも水の確保だけはしっかりと進めなければならない。その点は住民にもっとPRを。 ・北九州導水は余っていると聞く。それを福岡地区に回してもらうような県全体での取り組みも必要ではないか。 <p>以上のような感想、意見が出され、それに基づき、市制への移行については、今後の当委員会での取り組みの方向について検討を行い、次年度の取り組み内容を3月議会にて決定のうえ、引き続き進めていくこととなった。</p> <p>また、水に関する問題についても、市制への移行にもかかわってくることから、この課題をまとめ、継続して検討を行っていくこととした。</p>
<p>その他</p>	<p>なし</p>